

南相馬市 市民意識調査

調査結果速報

市内全域対象

2013年10月

南相馬市復興企画部企画課

目 次

調査の概要	1
回答者のプロフィール	2
1. 性別	2
2. 年齢	2
3. 現在の居住地	3
4. 居住地の変化	4
5. 震災前の居住地（現在の居住地と異なる方）	5
6. 現在の居住形態	6
7. 世帯構成	6
8. 職業	7
9. 業種	8
調査結果	9
1. 生活の不安・心配	9
2. 生活改善に必要な施策	11
3. 復興取組の総合評価	13
4. 復興取組の各評価	14
5. 今後の居留意向	16
6. 南相馬市に居住する理由	17
7. 南相馬市で暮らすための条件	19
8. 将来像の重要度	21
9. 力を入れるべき施策分野	22
10. 【産業・交流】力を入れるべき事項	24
11. 【教育・文化】力を入れるべき事項	25
12. 【環境・防災】力を入れるべき事項	26
13. 【医療・健康・福祉】力を入れるべき事項	27
14. 【インフラ整備】力を入れるべき事項	28
15. 【地域づくり】力を入れるべき事項	29
16. 【原子力災害の克服】力を入れるべき事項	30
17. 防災・減災のまちづくりに必要なこと	31

調査の概要

1．調査の目的

平成 26 年度予定の南相馬市総合計画策定等に向けての基礎資料として、現在における市民の生活実態の把握、復興関連取組に関する評価、将来のまちづくりへの考え方等の整理を目的にアンケート調査を実施。

2．調査期間

平成 25 年 8 月 23 日（金）～平成 25 年 9 月 6 日（金）

3．調査対象

小高区・鹿島区・原町区に住民登録をされている 18 歳以上の市民のうち、無作為に抽出された 3,000 人を対象

4．調査方法

郵送による配布・回収

5．配布・回収状況

配付数：無作為抽出 3,000 人

年代別

	小高区	鹿島区	原町区	計	割合
18歳	6	8	24	38	1.3
19歳	7	4	22	33	1.1
20代	62	52	226	340	11.3
30代	69	74	284	427	14.2
40代	69	61	288	418	13.9
50代	82	103	330	515	17.2
60代	103	89	430	622	20.7
70代以上	102	109	396	607	20.2
計	500	500	2,000	3,000	100

発送先別詳細

	小高区	鹿島区	原町区	計	割合
市内	292	463	1,648	2,403	80.1
県内(市内除く)	108	13	124	245	8.2
県外	100	24	228	352	11.7
計	500	500	2,000	3,000	100

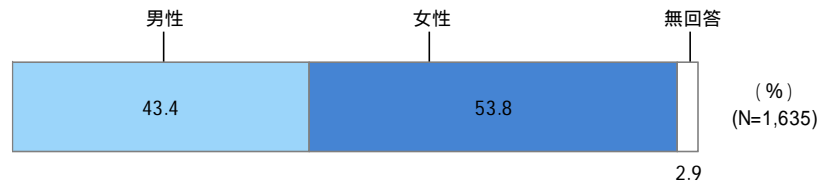
有効回収数：1,635 通

有効回収率：54.5%

回答者のプロフィール

1. 性別

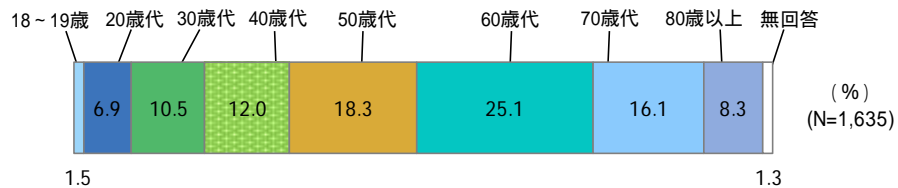
問1 あなたの性別をお答えください。(あてはまる番号1つに)



回答者の性別は、男性が43.4%、女性が53.8%となっている。

2. 年齢

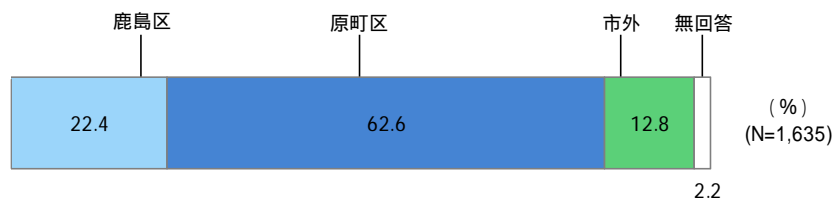
問2 あなたの年齢をお答えください。(平成25年8月23日現在)(あてはまる番号1つに)



回答者の年齢は、60歳代の回答が最も多く25.1%。60歳以上の高齢者が全体の約半数を占める。

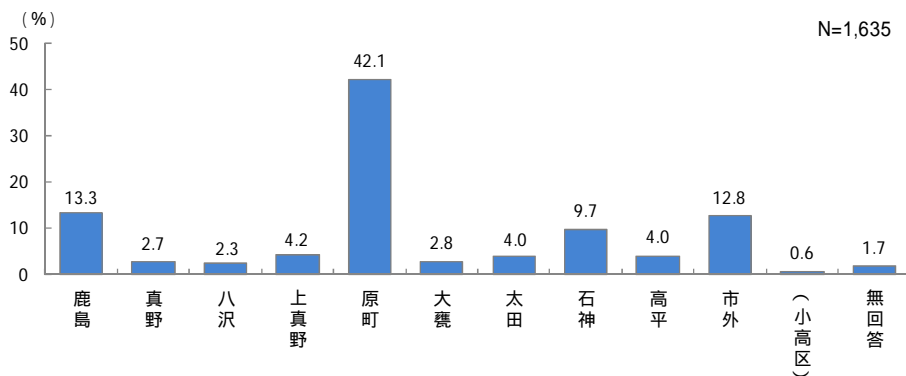
3. 現在の居住地

問3 現在のあなたの居住地をお答えください。(あてはまる番号1つに)
区、市外別

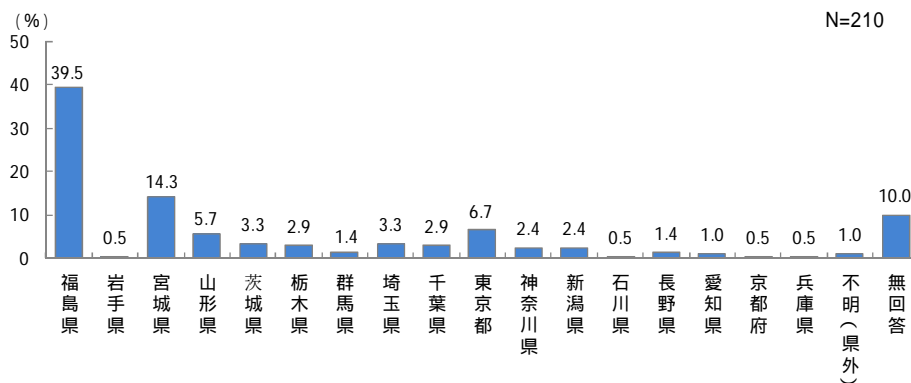


現在は、「原町区」居住者が62.6%と多く、6割以上を占める。

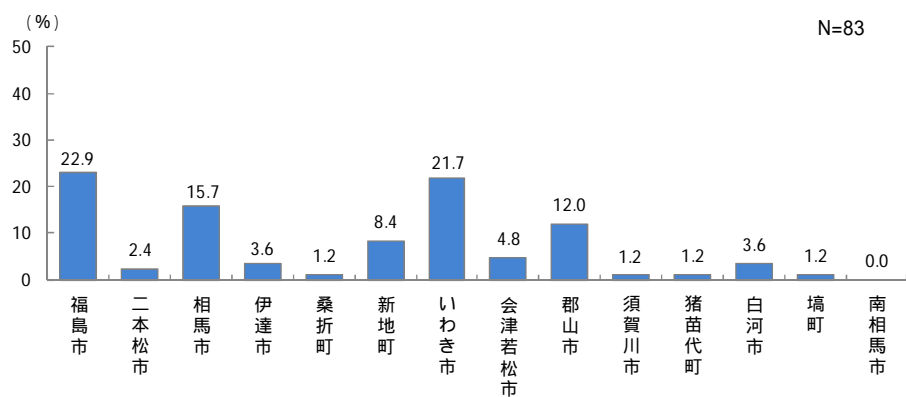
問3 現在のあなたの居住地をお答えください。(あてはまる番号1つに)



市外：都道府県別



市外：県内市町村別



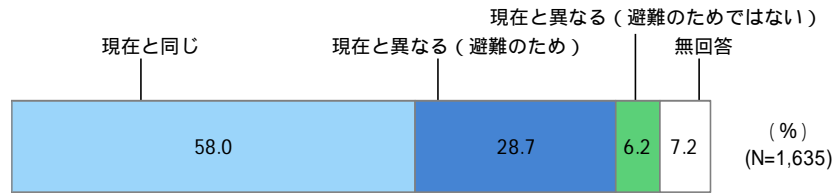
現在の居住地については「原町」が最も多く 42.1%、「市外」居住者は1割強となっている。

市外と回答した方の居住地を都道府県別に見ると、「福島県」(39.5%)が最も多く、次いで宮城県(14.3%)、東京都(6.7%)と続く。

また、南相馬市以外の福島県内居住地は、「福島市」(22.9%)と「いわき市」(21.7%)がともに2割強と多い。

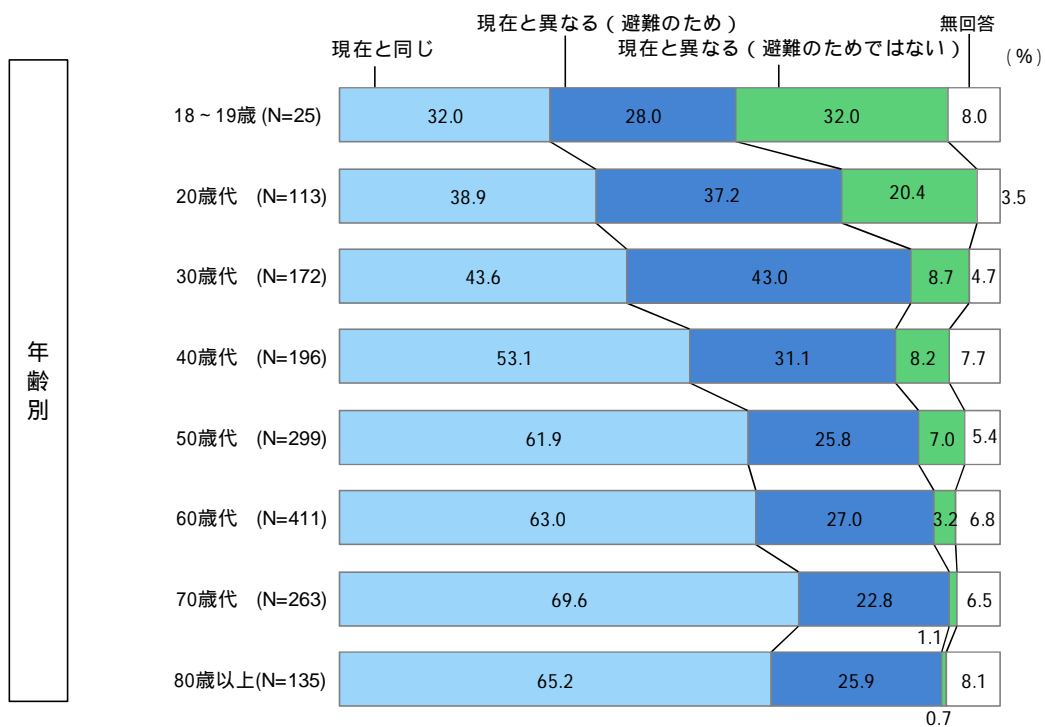
4 . 居住地の変化

問4 震災前の居住地は現在と異なりますか。(あてはまる番号1つに)



震災前との居住地の変化について、「現在と同じ」と回答した人が58.0%と全体の6割弱を占めており、「現在と異なる(避難のため)」と回答した人は約3割(28.7%)となっている。

【年齢別 / 居住地の変化】

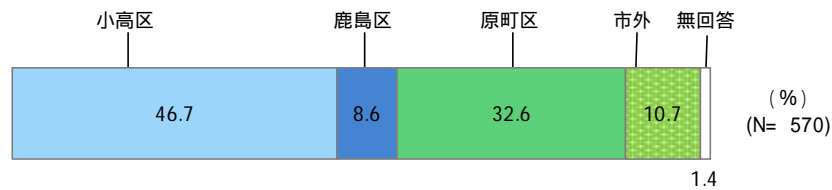


居住地の変化について年齢別にみると、震災前の居住地が「現在と同じ」と回答した人は年齢層が上がるにつれ増加傾向にあり、「70歳代」で69.6%と最も多くなっている。

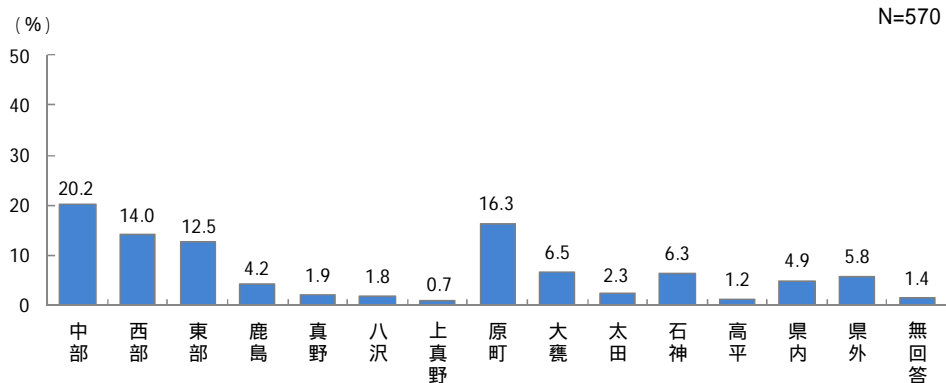
5. 震災前の居住地（現在の居住地と異なる方）

【問4で「現在と異なる」（「2」または「3」）と回答した方におたずねします。】

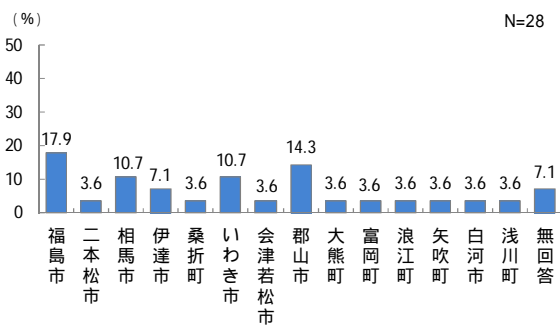
問4-1 震災前の居住地をお答えください。（あてはまる番号1つに ）



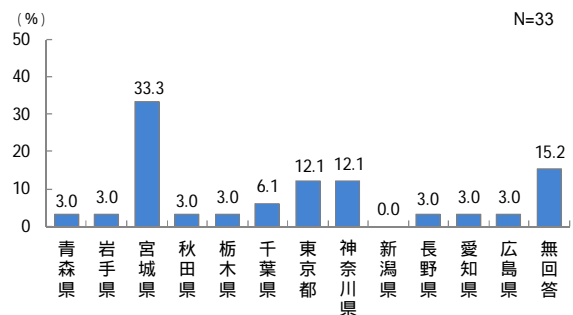
行政区別



県内



県外



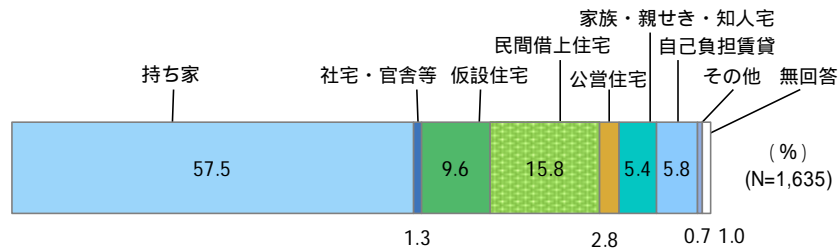
震災前と現在の居住地が異なる方の震災前の居住地は、「小高区」が46.7%と最も多く、次いで原町区が32.6%となっている。

行政区別では、「中部」が20.2%と最も多く、他「原町」（16.3%）、「西部」（14.0%）、「東部」（12.5%）が1割を超える形となっている。

南相馬市以外の県内居住地は、「福島市」（17.9%）、「郡山市」（14.3%）が多く、県外居住地は宮城県（33.3%）が最も多い。

6 . 現在の居住形態

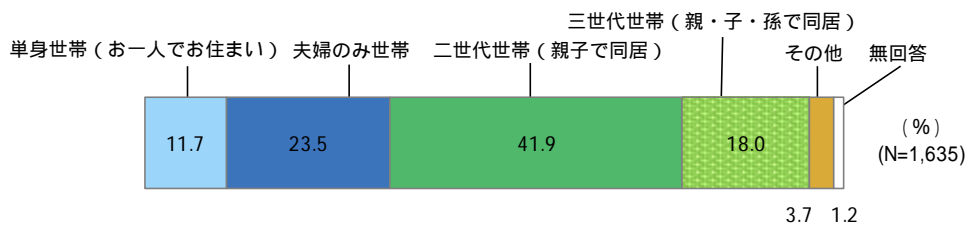
問5 現在のあなたの居住形態をお答えください。(あてはまる番号1つに)



居住形態について、「持ち家」が57.5%と過半数となっている。

7 . 世帯構成

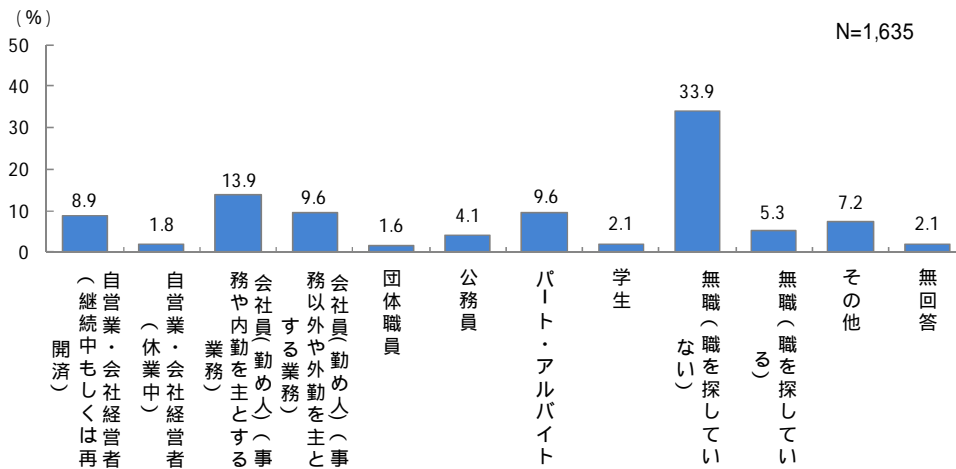
問6 現在のあなたの同居家族の世帯構成をお選びください。(あてはまる番号1つに)



同居家族の世帯構成では「二世帯世帯(親子で同居)」が最も多く41.9%、次いで「夫婦のみ世帯」が23.5%となっている。

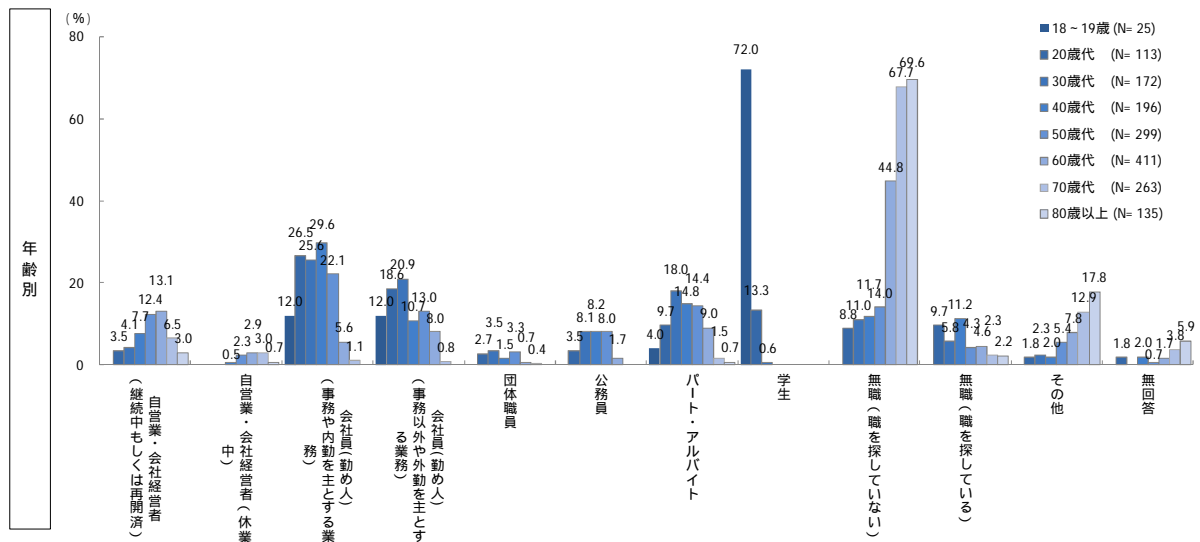
8. 職業

問7 現在のご職業をお答えください。(あてはまる番号1つに)



職業について、「無職 (職を探していない)」が 33.9%と最も多く 3 割強となっている。

【年齢別 / 職業】



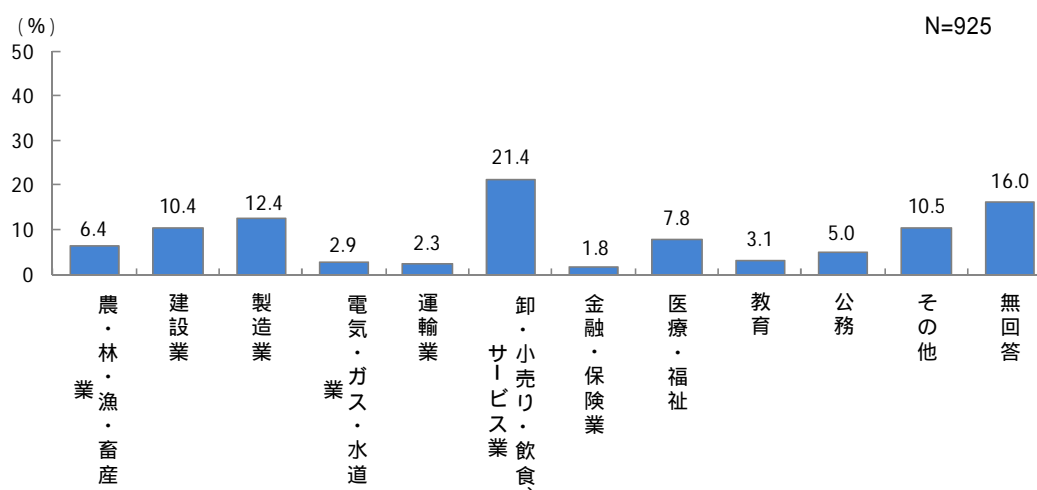
職業を年齢別にみると、「18~19歳」では学生が約7割、「20~50歳代」は「会社員(勤め人)(事務以外や外勤を主とする業務)」が2割前後と多くなっている。

60歳以上の高齢者は「無職(職を探していない)」が多く、特に70歳代以上では6割を超える。

9 . 業種

【問7で「1」から「7」、「11」と回答した方におたずねします。】

問7-1 業種をお答えください。(あてはまる番号1つに)



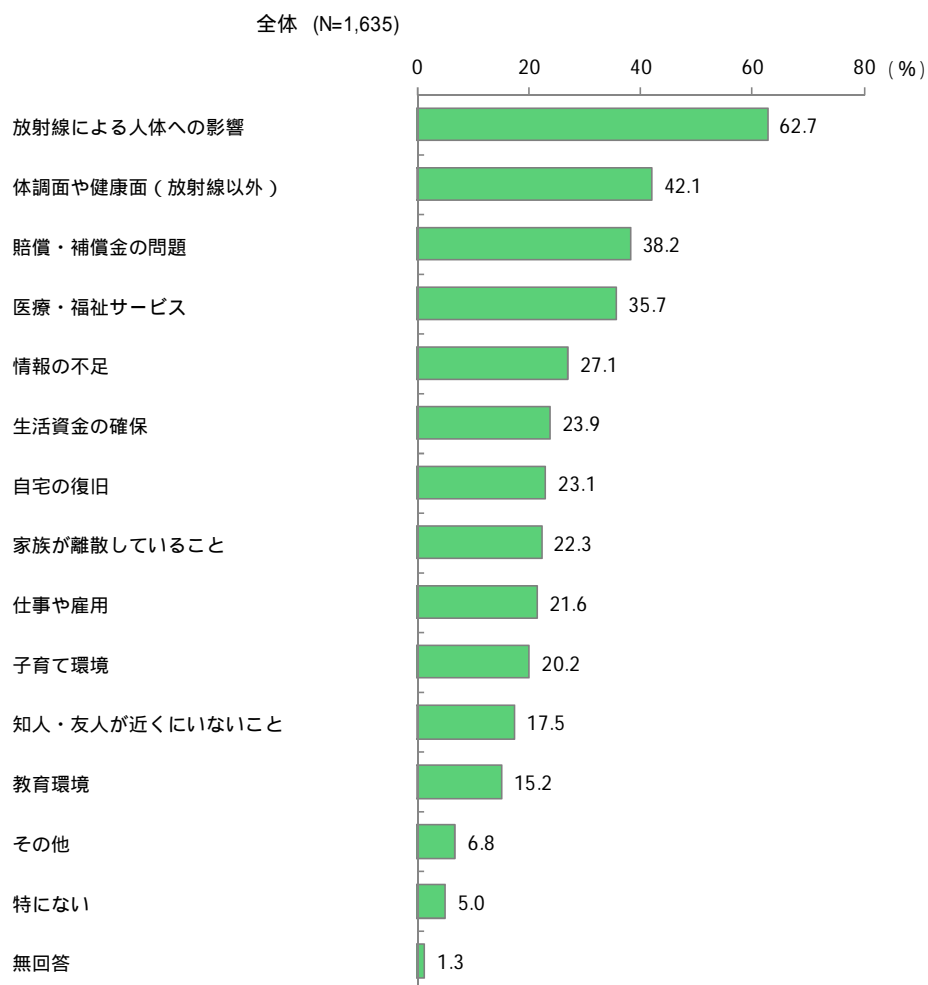
仕事についている人(学生・無職以外)の業種は、「卸・小売り・飲食、サービス業」が21.4%と最も多く、次いで「製造業」が12.4%となっている。

調査結果

1. 生活の不安・心配

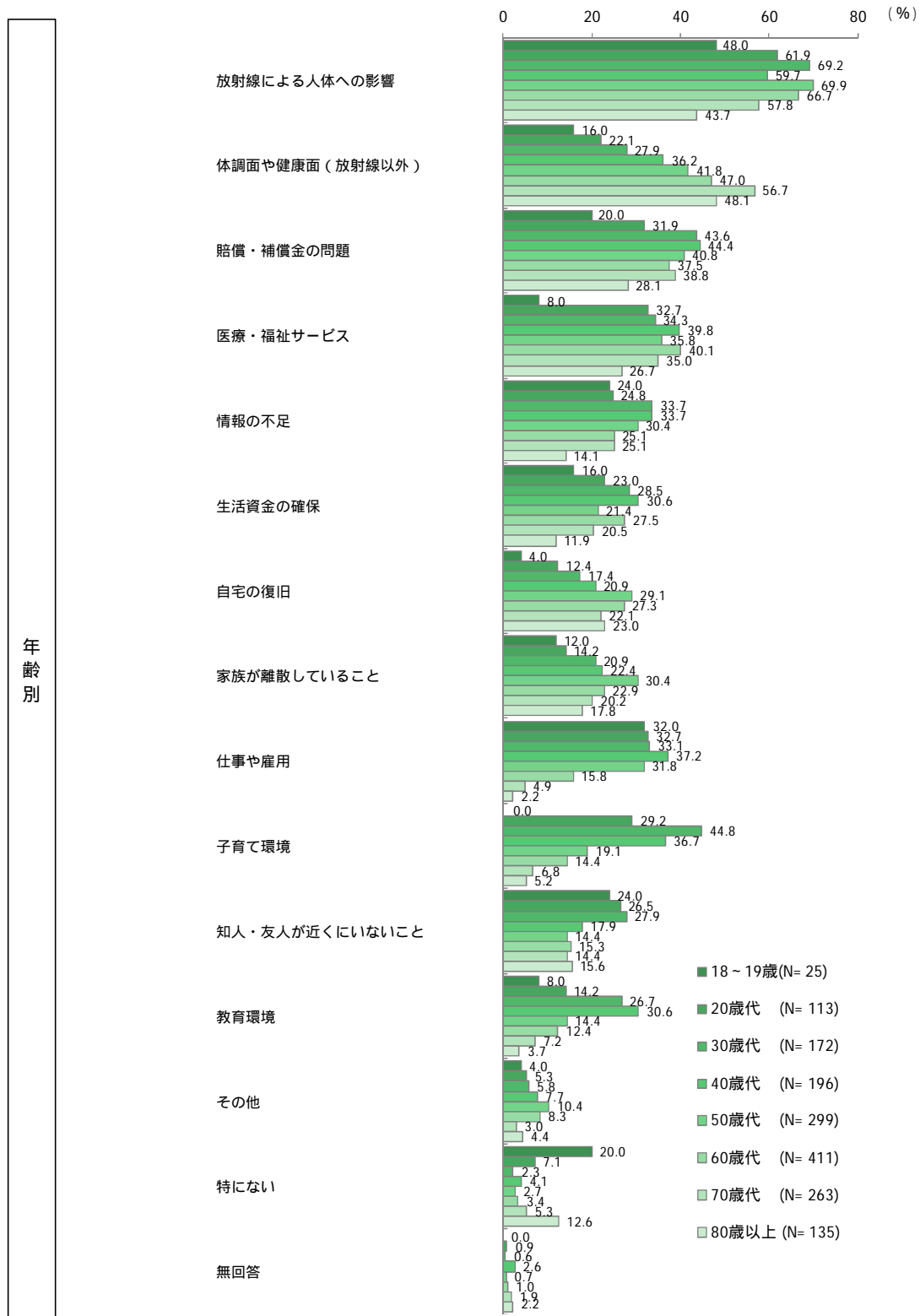
問8 あなたは現在の生活の中で、不安や心配を抱えていることはありますか。

(あてはまる番号すべてに)



生活で抱えている不安や心配は「放射線による人体への影響」が62.7%と最も多く、次いで「体調面や健康面 (放射線以外)」が42.1%、「賠償・補償金の問題」が38.2%となっている。

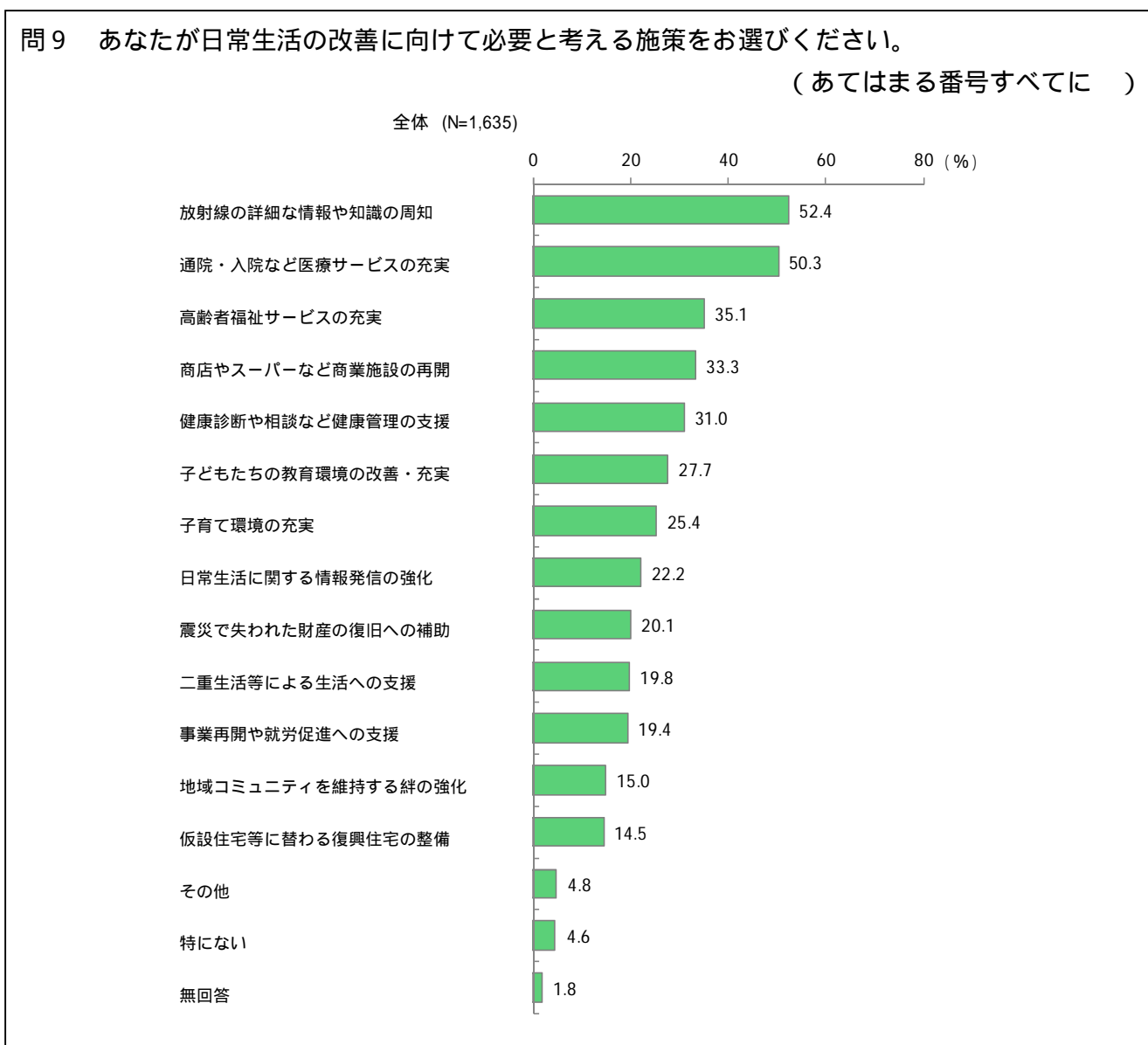
【年齢別 / 生活の不安・心配】



生活の不安・心配について年齢別に見ると、「放射能による人体の影響」は20～70歳代で過半数となっており、特に30・50歳代では約7割が回答している。「体調面や健康面（放射能以外）」が心配と回答した人は年齢層が上がるにつれ多くなっており、70歳代では56.7%と半数を超える。

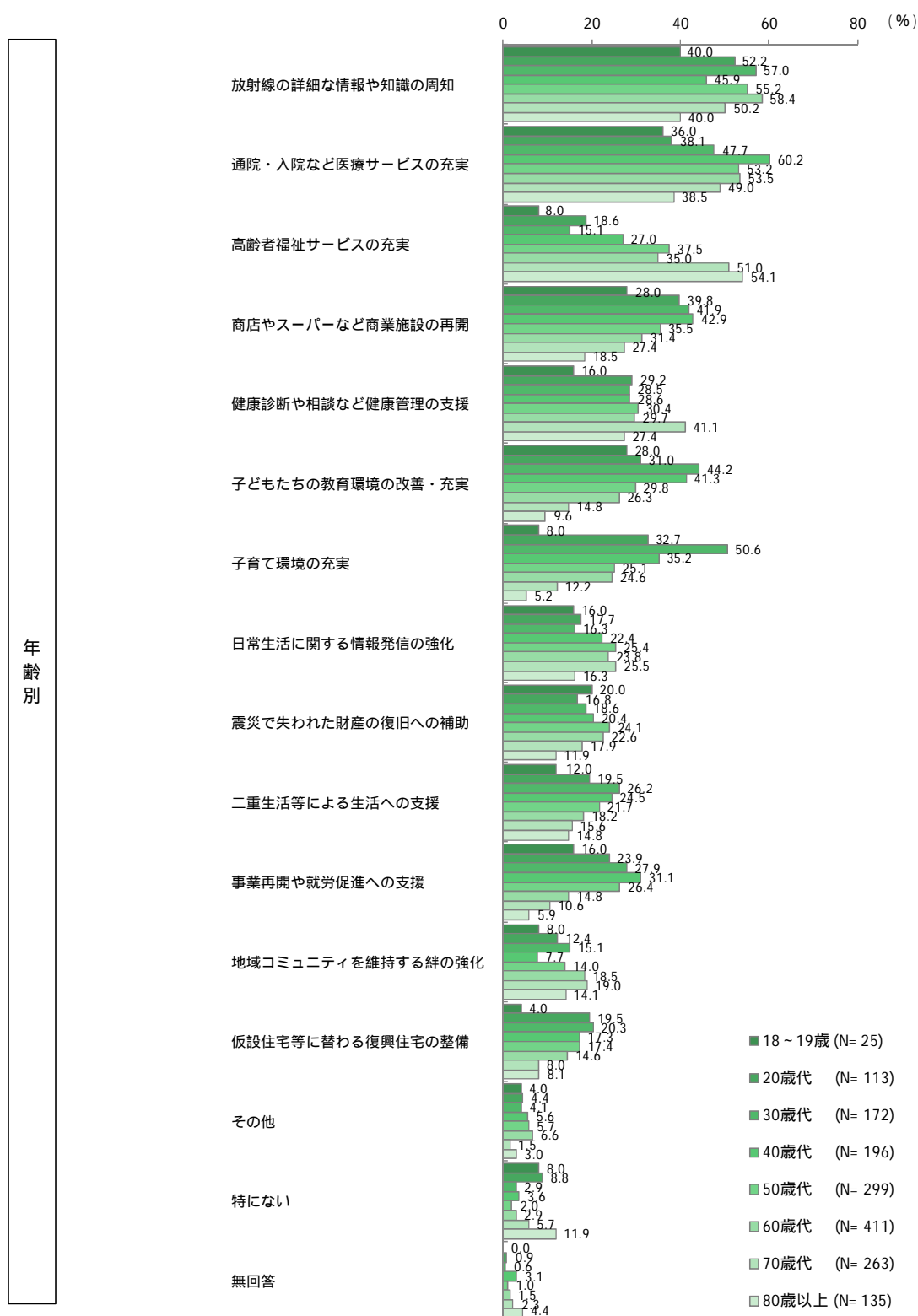
また、「子育て環境」や「教育環境」については、20歳代から40歳代までの若い年代での回答が多い。

2. 生活改善に必要な施策



日常生活の改善に必要な施策について、「放射線の詳細な情報や知識の周知」が52.4%、「通院・入院など医療サービスの充実」が50.3%と多く、ともに過半数となっている。

【年齢別 / 生活改善に必要な施策】

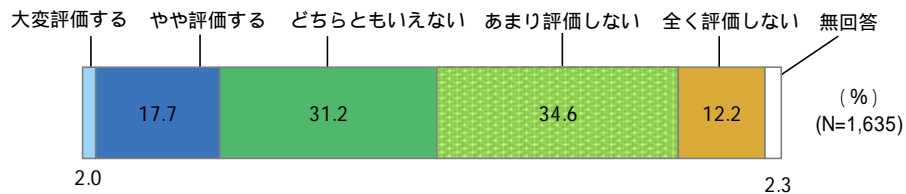


生活改善に必要な施策を年齢別に見ると、「高齢者福祉サービスの充実」との回答は70歳以上で多く過半数、「子育て環境の充実」や「子どもたちの教育環境の改善・充実」など子どもに関する項目では30~40歳代の回答が多くなっている。

3. 復興取組の総合評価

問10 南相馬市の、復興への取組に対する総合的な評価はいかがですか。

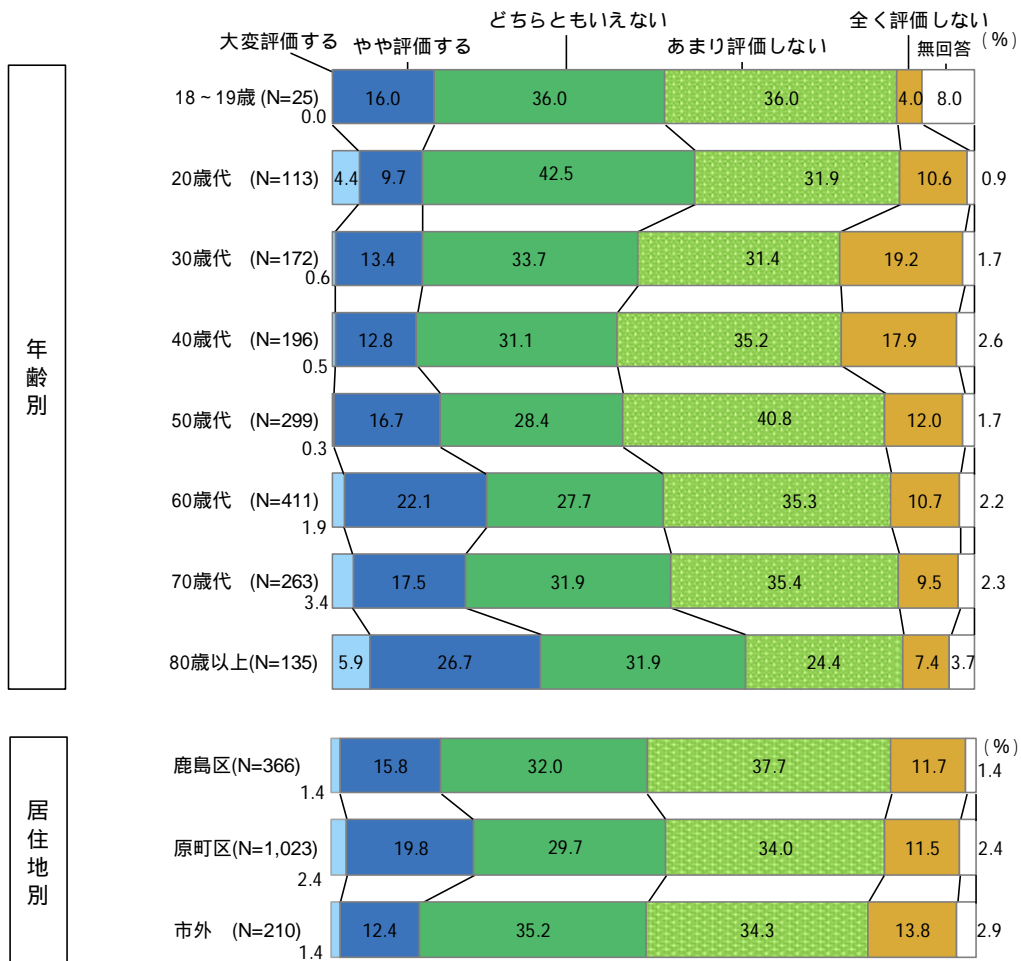
(あてはまる番号1つに)



南相馬市の復興への取り組みに対する評価は、「あまり評価しない」が34.6%と最も多く、「全く評価しない」(12.2%)と合わせた《低評価層》が全体の4割半ばを占める。

「大変評価する」(2.0%)と「やや評価する」(17.7%)を合わせた《高評価層》は全体の約2割にとどまっている。

【属性別 / 復興取組の総合評価】



復興取組の総合評価について年齢別に見ると、《高評価層》は「80歳以上」で32.6%と最も多く、《低評価層》は30～50歳代の中年層で過半数と復興取組への評価は低い。

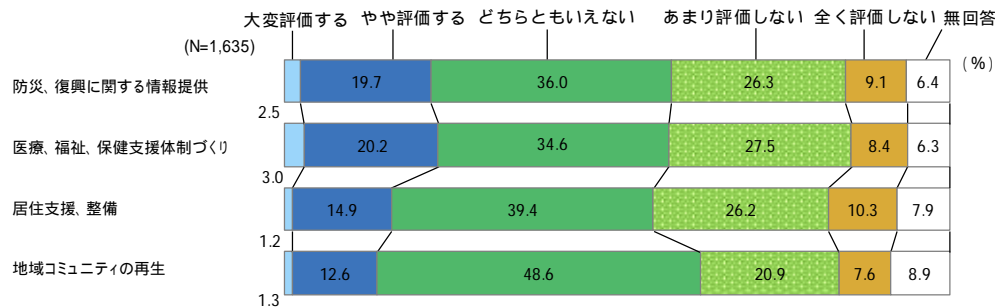
居住地別に見ると、《高評価層》は「原町区」で22.2%と最も多く、他のエリアに比べ評価がやや高い。

4 . 復興取組の各評価

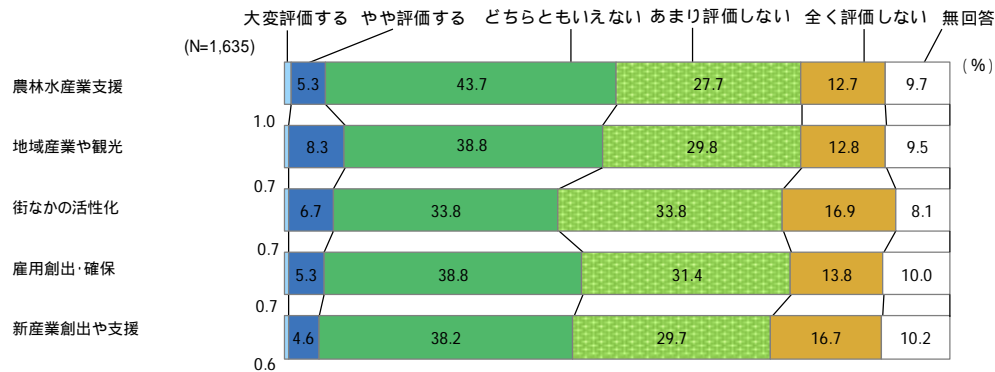
問 1 1 南相馬市の復興計画に対する評価を、各項目それぞれについてお選びください。

(それぞれあてはまる番号1つに)

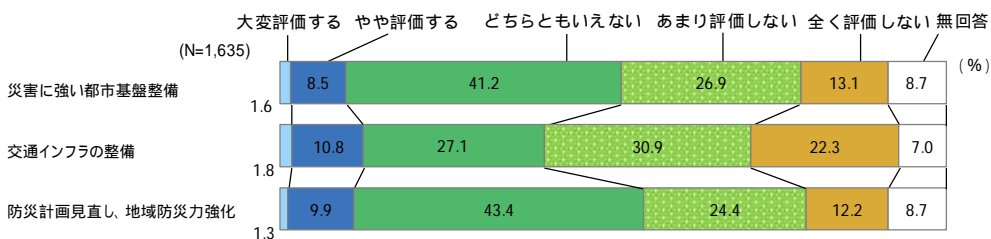
【市民生活の復興】



【経済の復興】



【防災のまちづくり】



市民生活の復興については、「医療、福祉、保健体制づくり」「防災、復興に関する情報提供」で《高評価層》が約2割と他の項目に比べ評価がやや高い。

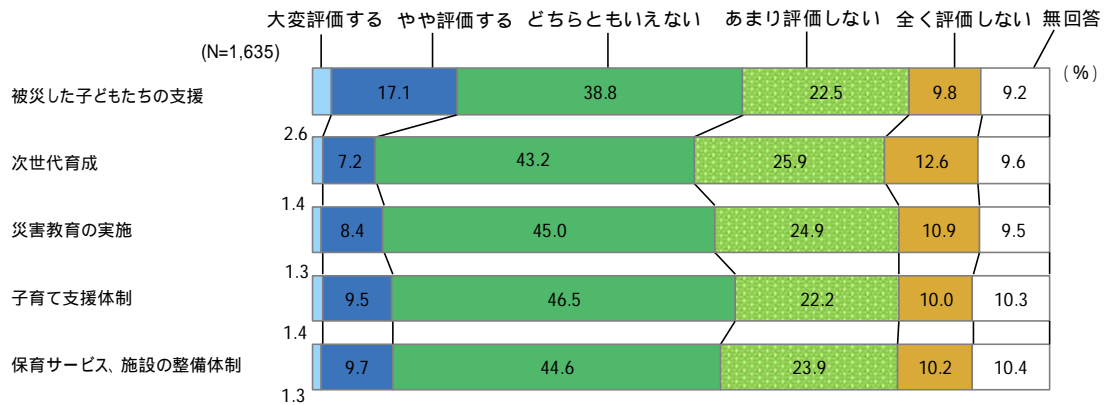
経済の復興については、すべての項目で《低評価層》が約4~5割と評価が低く、「街なかの活性化」では過半数となっている。

防災のまちづくりについても同様に、全体的に評価が低く「交通インフラの整備」では《低評価層》が過半数を占める。

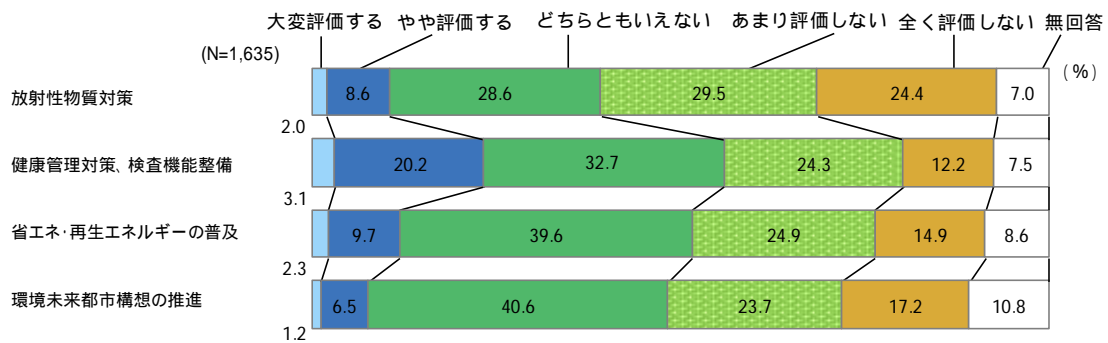
問 1 1 南相馬市の復興計画に対する評価を、各項目それぞれについてお選びください。

(それぞれあてはまる番号1つに)

【人づくり・子育て環境の充実】



【原子力災害の克服】



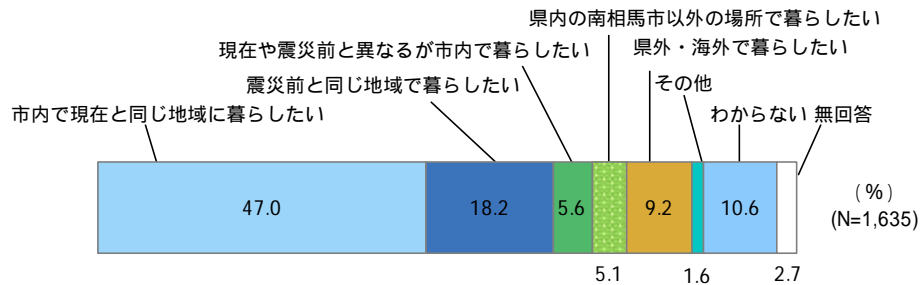
人づくり・子育て環境の充実については、「被災した子どもたちの支援」で他の項目に比べ評価が高く《高評価層》が19.7%となっている。

原子力災害の克服については「健康管理対策、検査機能整備」で《高評価層》が23.3%と評価がやや高い。一方、「放射性物質対策」では《低評価層》が53.9%と過半数を占めている。

5. 今後の居留意向

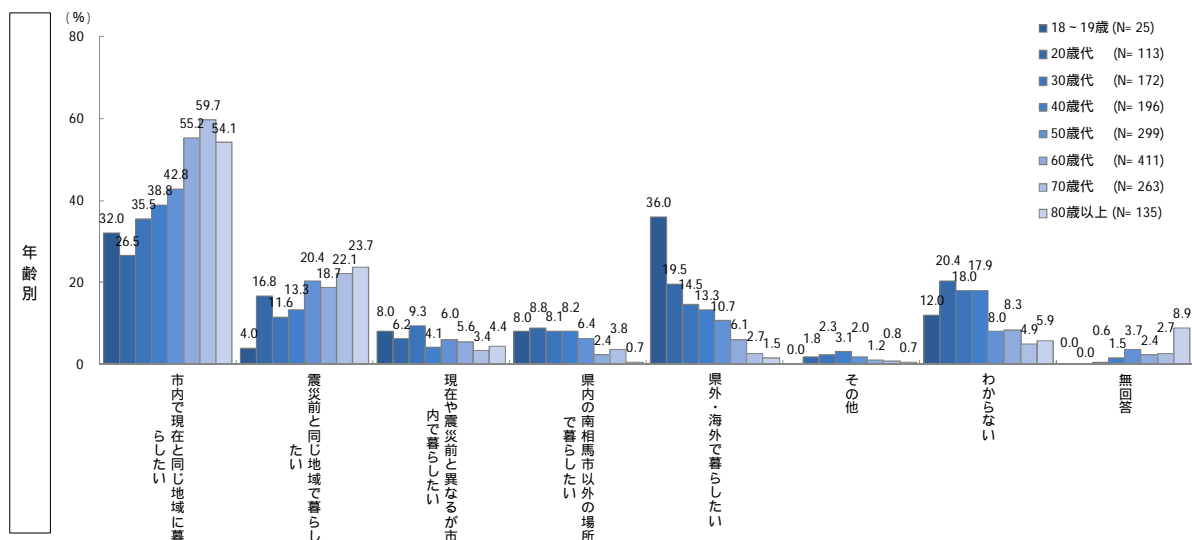
問12 あなたは南相馬市に、今後も暮らしたいと思えますか。

(それぞれあてはまる番号1つに)



今後の南相馬市での居留意向について、「市内で現在と同じ地域に暮らしたい」との回答が47.0%と最も多く、「震災前と同じ地域で暮らしたい」(18.2%)、「現在や震災前と異なるが市内で暮らしたい」(5.6%)を合わせると、市内での居住を希望する人は全体の約7割となっている。

【年齢別 / 今後の居留意向】



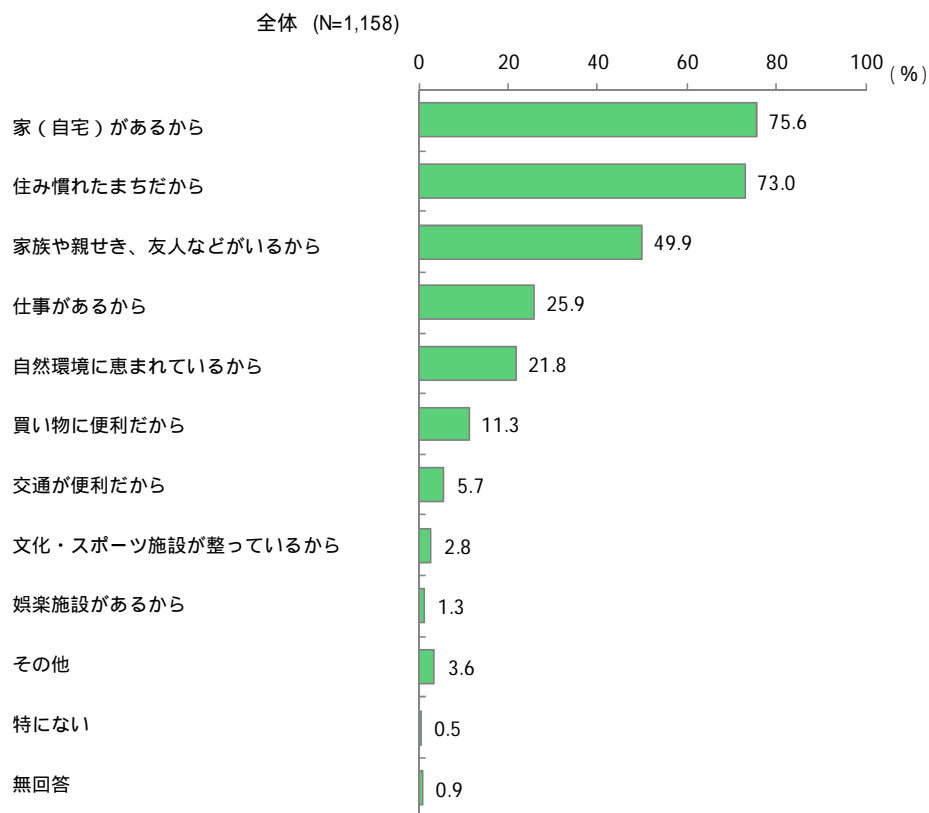
今後の居留意向について年齢別にみると、「市内で現在と同じ地域に暮らしたい」との回答は年齢が上がるにつれ増加しており、「70歳代」では約6割を占める。また「震災前と同じ地域で暮らしたい」との回答についてもおおむね同様の傾向がみられる。

一方、「県外・海外で暮らしたい」との回答は年齢層が下がるほど多く、「18~19歳代」では36.0%と、3人に1人が県外での居住を希望している。

6 . 南相馬市に居住する理由

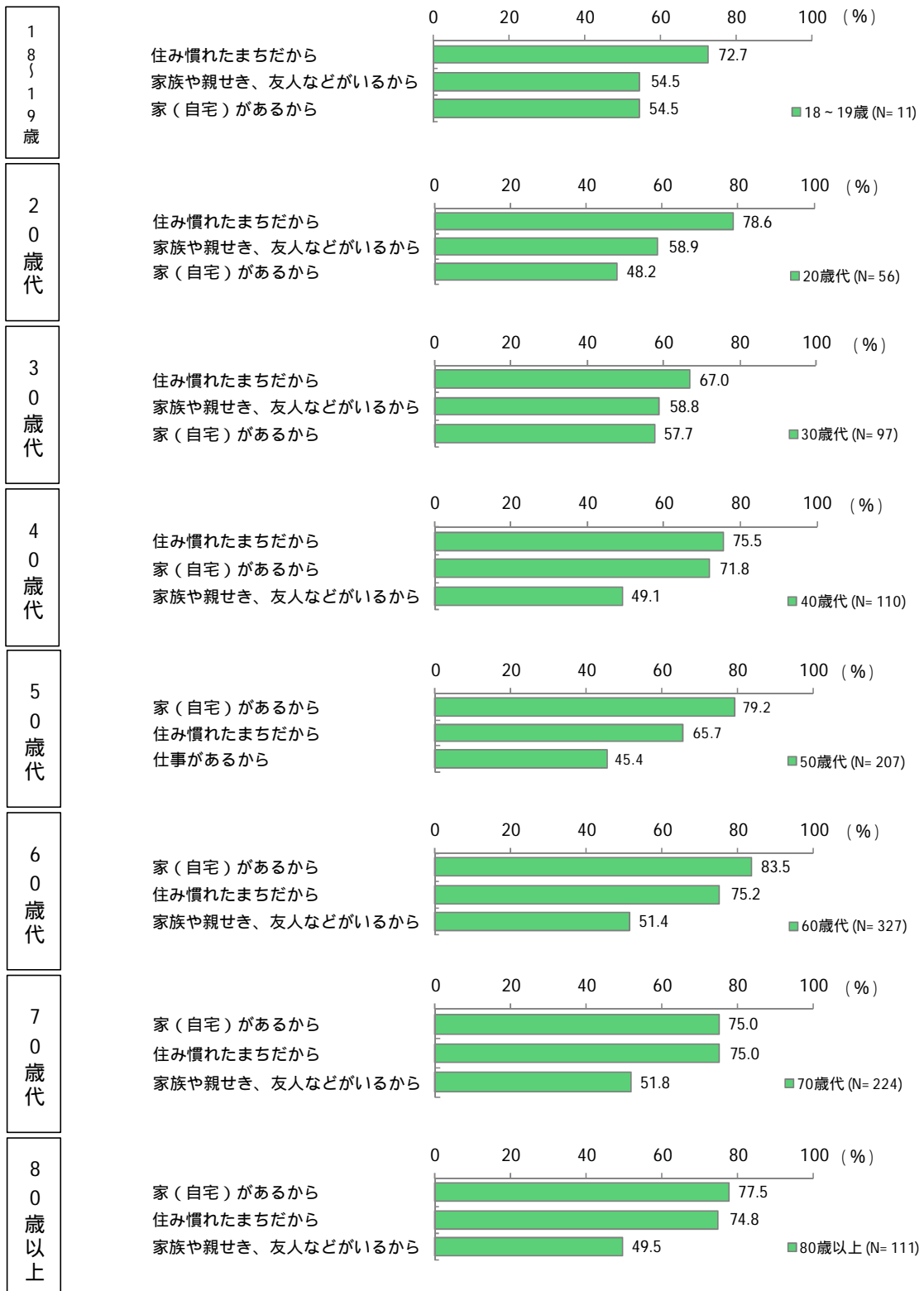
【問 12 で市内で暮らしたい(「1」～「3」)と回答した方におたずねします。】

問 1 2 - 1 その理由は何ですか。(あてはまる番号すべてに)



今後市内での居住を希望する人に、その理由をたずねたところ、「家(自宅)があるから」(75.6%)、「住み慣れたまちだから」(73.0%)との回答が多く、ともに7割以上となっている。

【年齢別 / 南相馬市に居住する理由】



南相馬市に居住する理由の上位3項目を年齢別に見ると、40歳代以下の若年層～中年層では「住み慣れたまちだから」との回答が7割前後でトップ項目となっているのに対し、50歳以上の中年層～高齢層では「家（自宅）があるから」との回答が8割前後と最も多く、トップ項目となっている。

7. 南相馬市で暮らすための条件

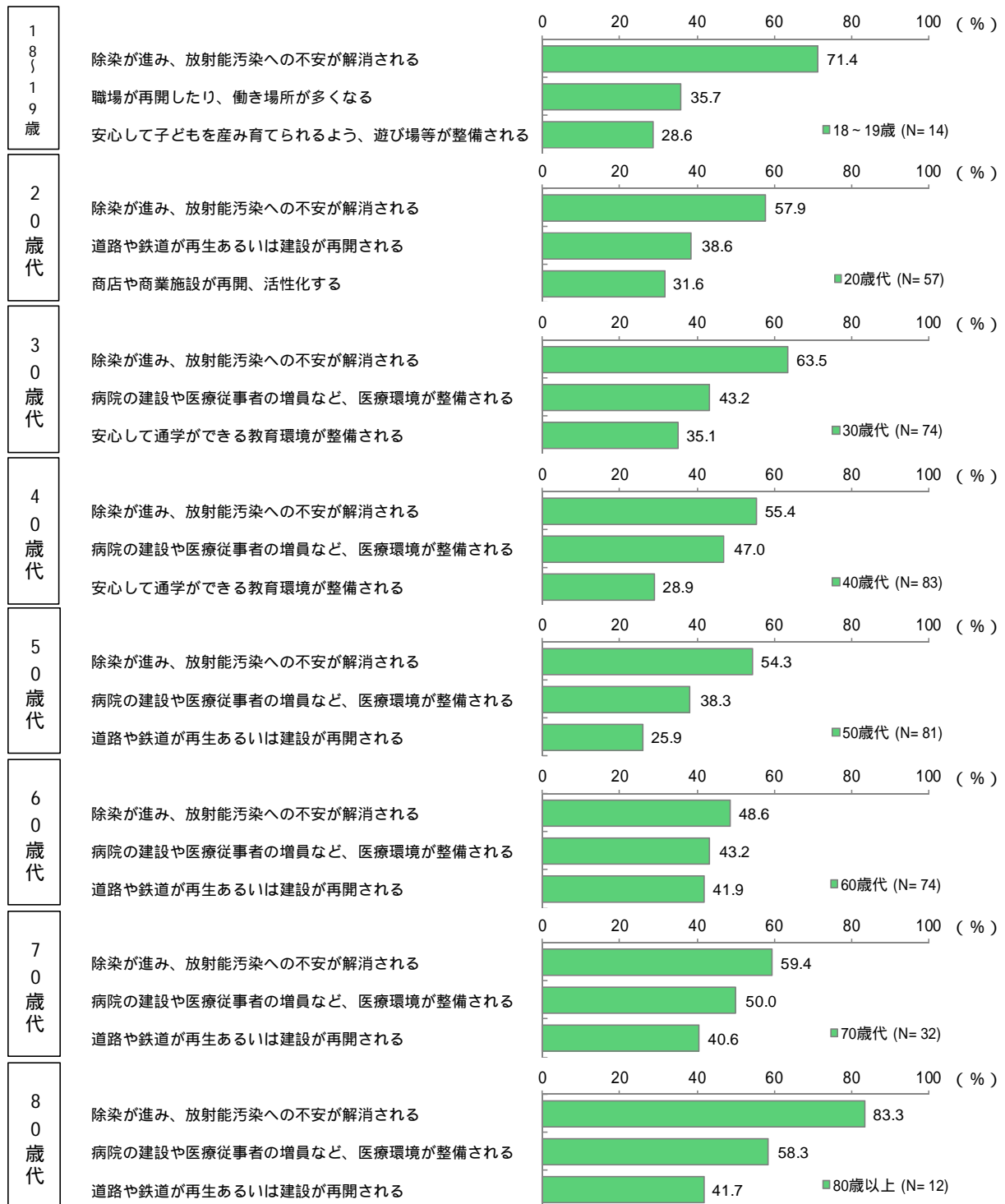
【問12で市外で暮らしたい、わからない(「4」～「7」)と回答した方におたずねします。】

問12-2 どのようなまちになったら(条件が揃ったら)南相馬市で暮らしたいと思いますか。
(特にそう思うもの3つまで)



今後の居住意向について市外で暮らしたい、わからないと回答した人に南相馬で暮らすための条件をたずねたところ、「除染が進み、放射能汚染への不安が解消される」が57.5%と最も多く、次いで「病院の建設や医療従事者の増員など、医療環境が整備される」が41.1%となっている。

【年齢別 / 南相馬市で暮らすための条件】



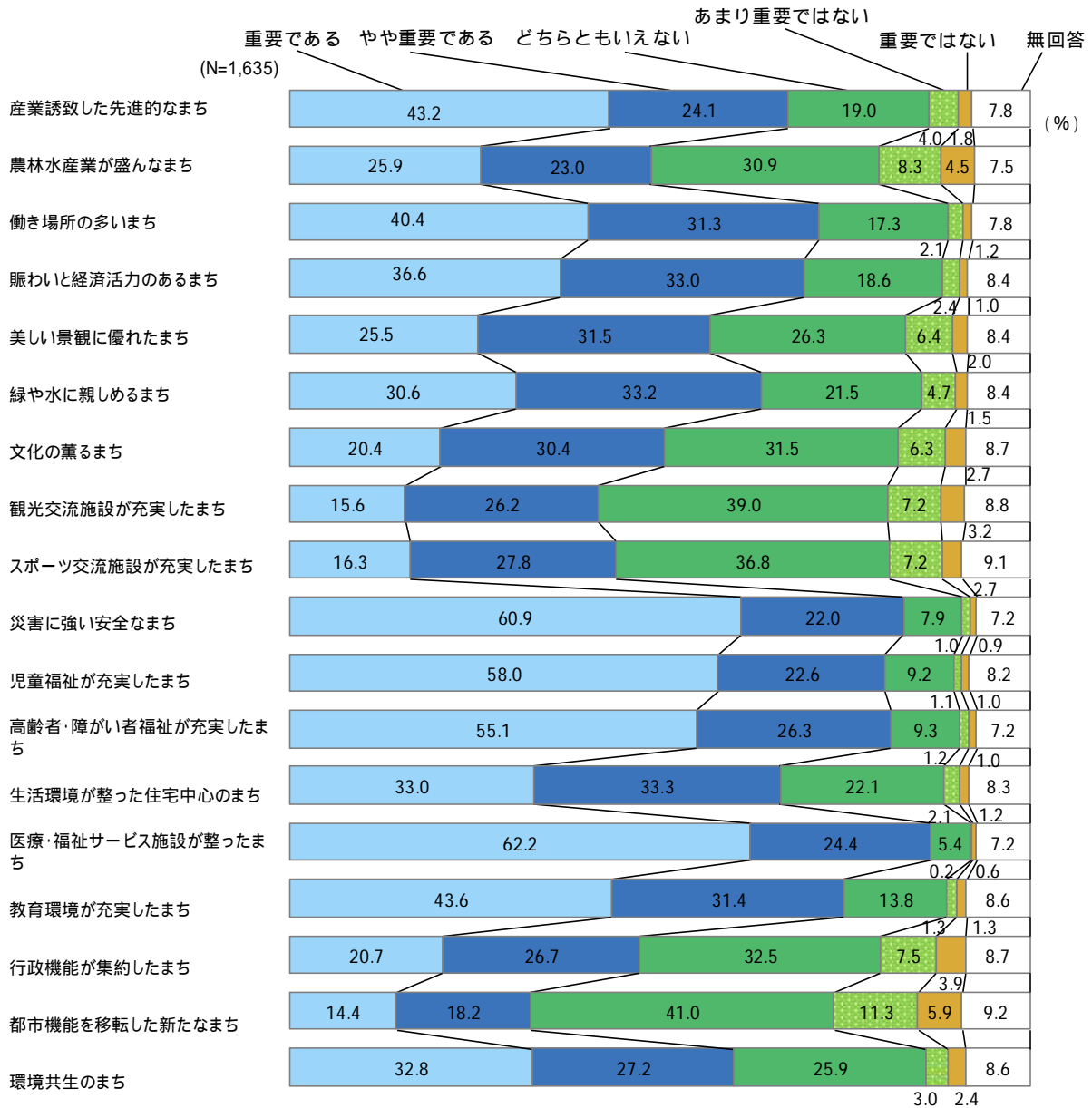
南相馬市で暮らすための条件の上位3項目を年齢別に見ると、すべての年代で「除染が進み、放射能汚染への不安が解消される」との回答が最も多く、おおむね過半数となっている。

また、30歳以上では放射能汚染への不安解消に次いで「病院の施設や医療従事者の増員など、医療環境が整備される」との回答が多く、健康面での安心を得ることが居住の条件となっている人が多いことがわかる。

8. 将来像の重要度

問13 今後の南相馬市は、どのような「まち」になることが重要とお考えですか。以下に挙げる17の将来像について、それぞれの重要度をお答えください。

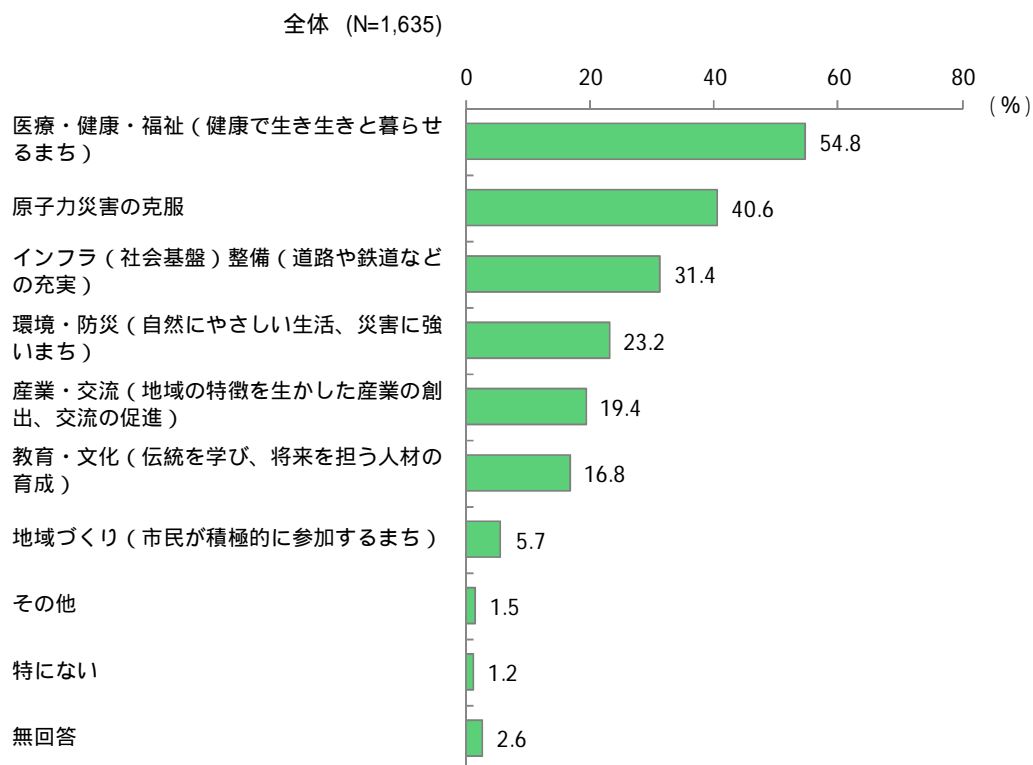
(それぞれあてはまる番号1つに)



南相馬市の将来像について、『重要である』との回答は「医療・福祉サービス施設が整ったまち」(62.2%)が最も多く、以下、「災害に強い安全なまち」(60.9%)、「児童福祉が充実したまち」(58.0%)、「高齢者・障がい者福祉が充実したまち」(55.1%)となっている。「重要である」と「やや重要である」を合わせた《重要度》についても同様に8割以上と高く、防災に加え、医療や高齢者・児童福祉をまちの重要項目と考えている人が多い。

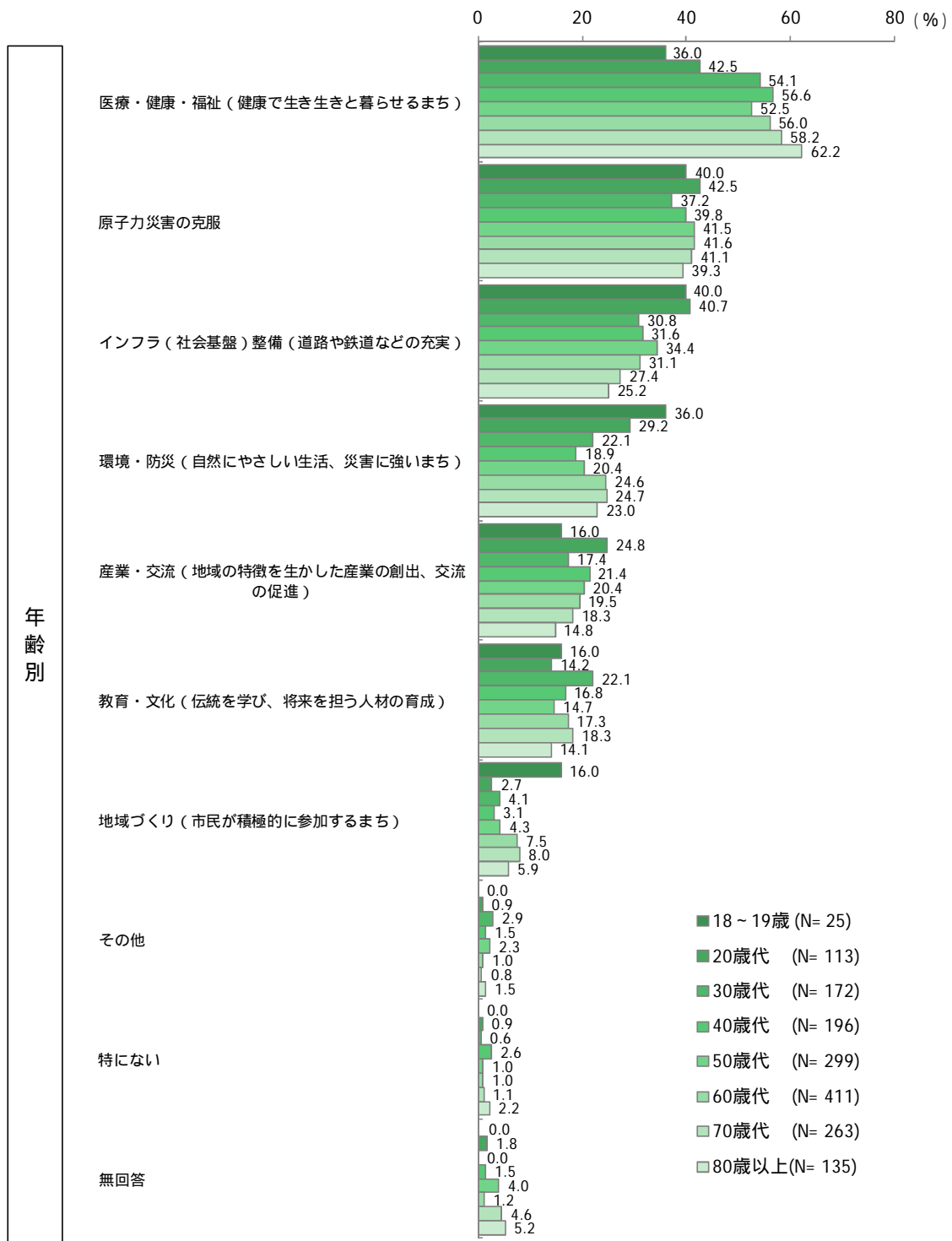
9 . 力を入れるべき施策分野

問14 今後、南相馬市が取り組む施策のうち、特に力を入れるべき分野・事項についてお答えください。(特にそう思うもの2つまで)



南相馬市が取り組む施策で力を入れるべき分野・事項について、「医療・健康・福祉 (健康で生き生きと暮らせるまち)」が最も多く 54.8%、次いで「原子力災害の克服」が 40.6%となっている。

【年齢別 / 力を入れるべき施策分野】

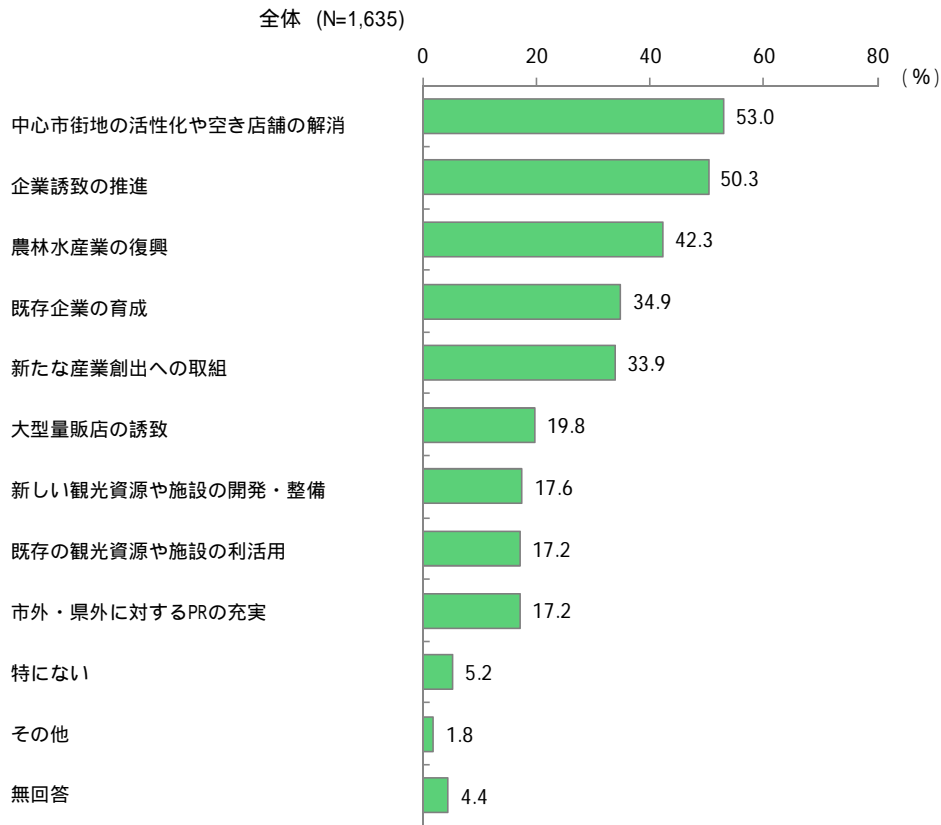


南相馬市が取り組む施策で力を入れるべき分野・事項について年齢別にみると、「医療・健康・福祉 (健康で生き生きと暮らせるまち)」と回答した方は年代が上がるにつれ多くなり、「80歳以上」では6割以上となっている。

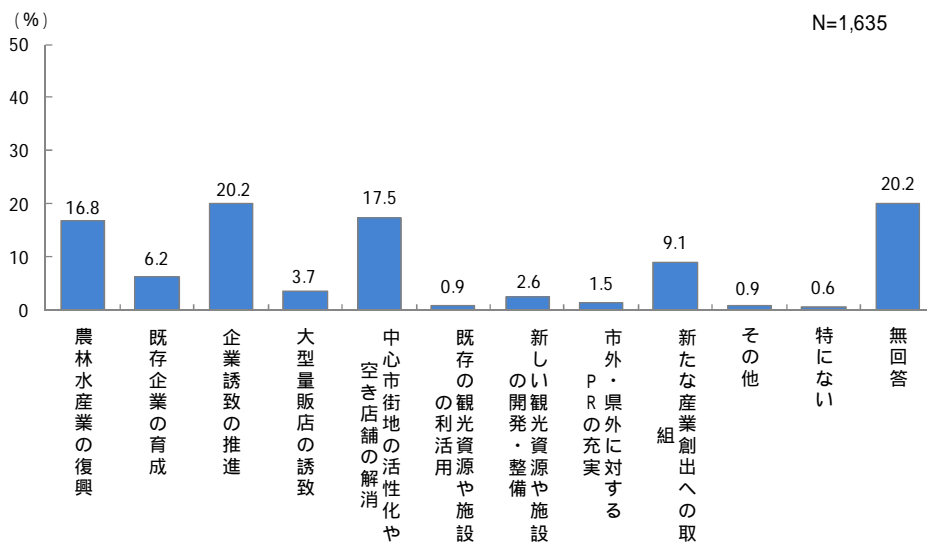
また、「インフラ (社会基盤) 整備 (道路や鉄道などの充実)」との回答は 20歳代以下の若年層に多く、約4割となっている。

10.【産業・交流】力を入れるべき事項

問15 今後、南相馬市が取り組む施策「産業・交流」について、力を入れるべき事項についてお答えください。(あてはまる番号すべてに)



問15-1 問15でお答えになったもののうち、最も力を入れるべき事項は何ですか。

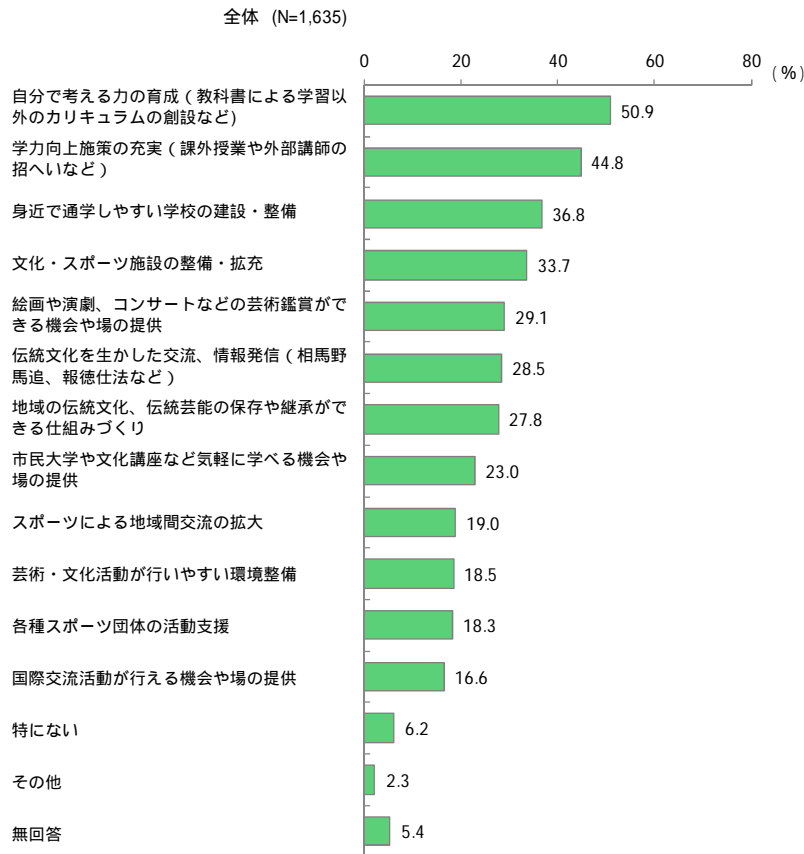


南相馬市が取り組む施策「産業・交流」で力を入れるべき事項については、「中心市街地の活性化や空き店舗の解消」が53.0%と最も多く、次いで「企業誘致の推進」が50.3%となっている。

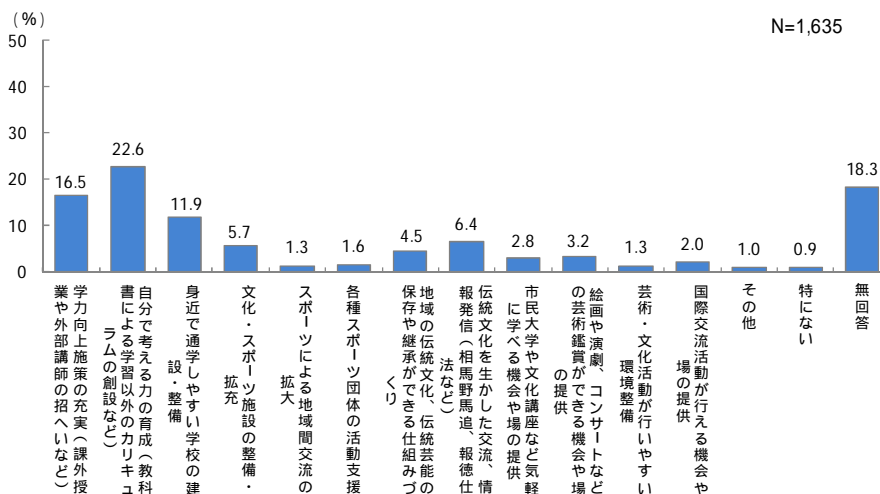
最も力を入れるべき事項としては、「企業誘致の推進」が20.2%で最も多くなっている。

11.【教育・文化】力を入れるべき事項

問16 今後、南相馬市が取り組む施策「教育・文化」について、力を入れるべき事項についてお答えください。(あてはまる番号すべてに)



問16-1 問16でお答えになったもののうち、最も力を入れるべき事項は何ですか。

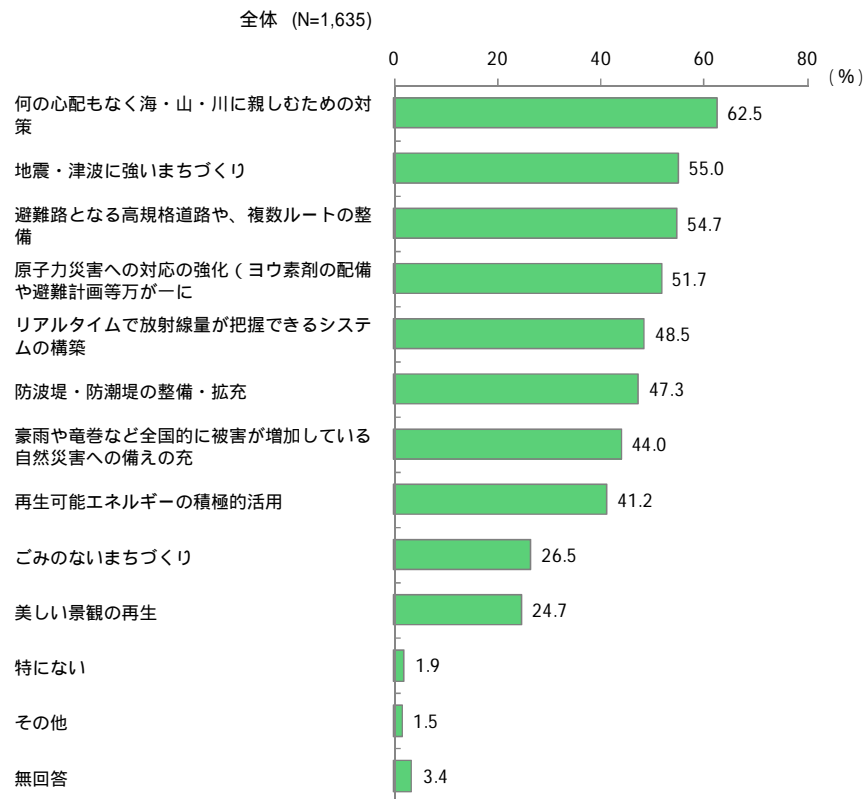


南相馬市が取り組む施策「教育・文化」で力を入れるべき事項については、「自分で考える力の育成(教科書による学習以上のカリキュラムの創設など)」が50.9%と最も多く、次いで「学力向上施策の充実(課外授業や外部講師の招へいなど)」が44.8%となっている。

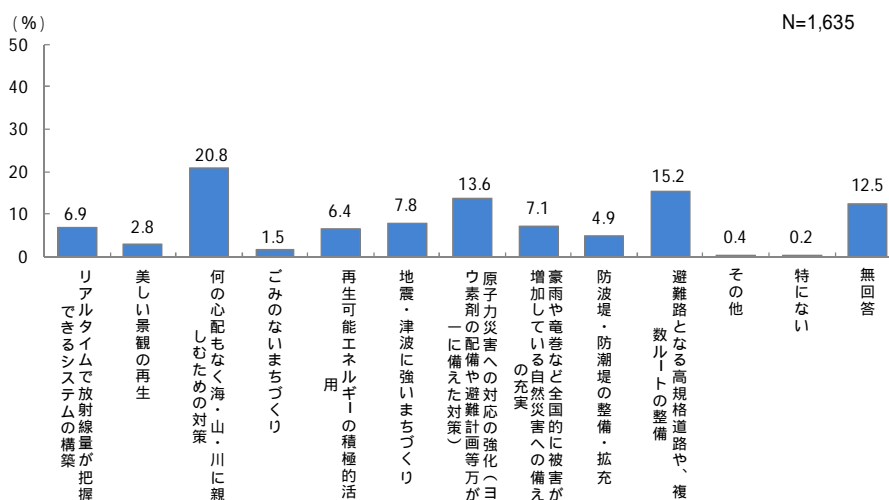
最も力を入れるべき事項も同様に、「自分で考える力の育成(教科書による学習以外のカリキュラムの創設など)」が22.6%で最も多くなっている。

12.【環境・防災】力を入れるべき事項

問17 今後、南相馬市が取り組む施策「環境・防災」について、力を入れるべき事項についてお答えください。(あてはまる番号すべてに)



問17-1 問17でお答えになったもののうち、最も力を入れるべき事項は何ですか。

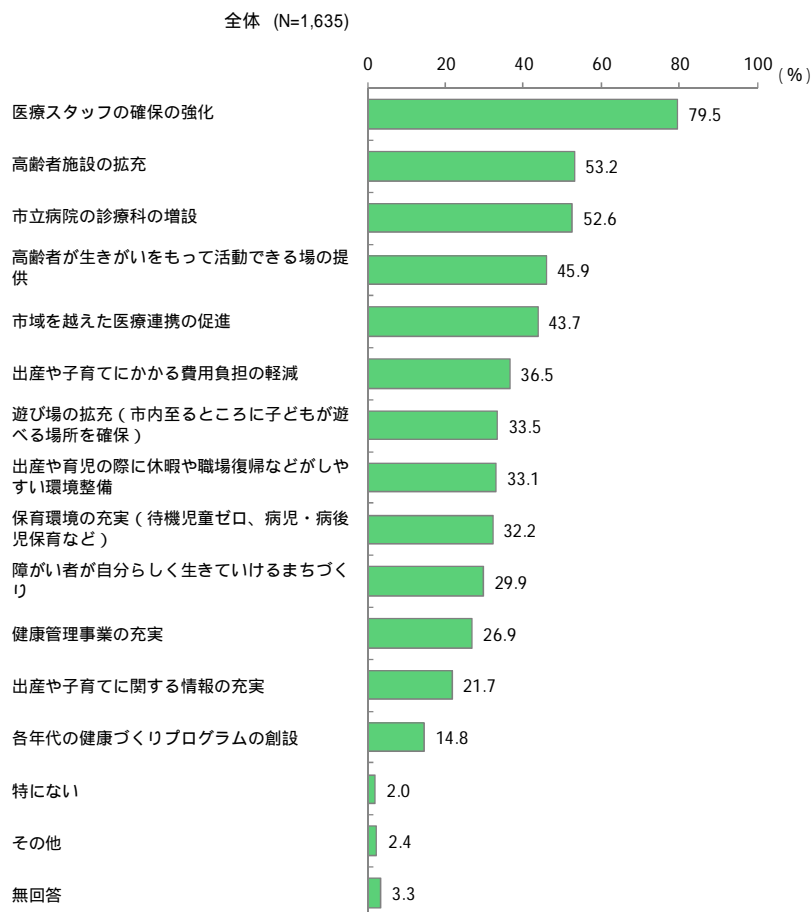


南相馬市が取り組む施策「環境・防災」で力を入れるべき事項については、「何の心配もなく海・山・川に親しむための対策」が62.5%と最も多く、次いで「地震・津波に強いまちづくり」(55.0%)や「避難路となる高規格道路や、複数ルートを整備」(54.7%)となっている。

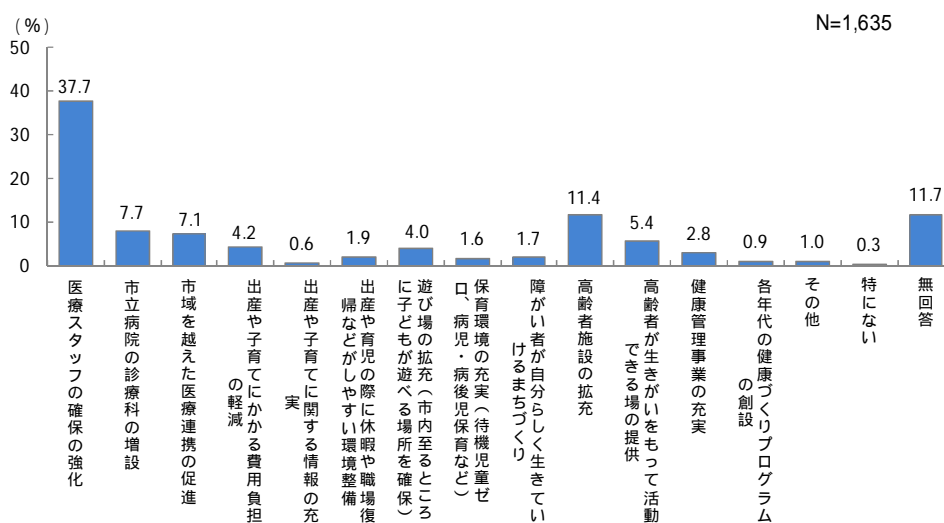
最も力を入れるべき事項も同様に、「何の心配もなく海・山・川に親しむための対策」が20.8%で最も多い。

13.【医療・健康・福祉】力を入れるべき事項

問18 今後、南相馬市が取り組む施策「医療・健康・福祉」について、力を入れるべき事項についてお答えください。(あてはまる番号すべてに)



問18-1 問18でお答えになったもののうち、最も力を入れるべき事項は何ですか。

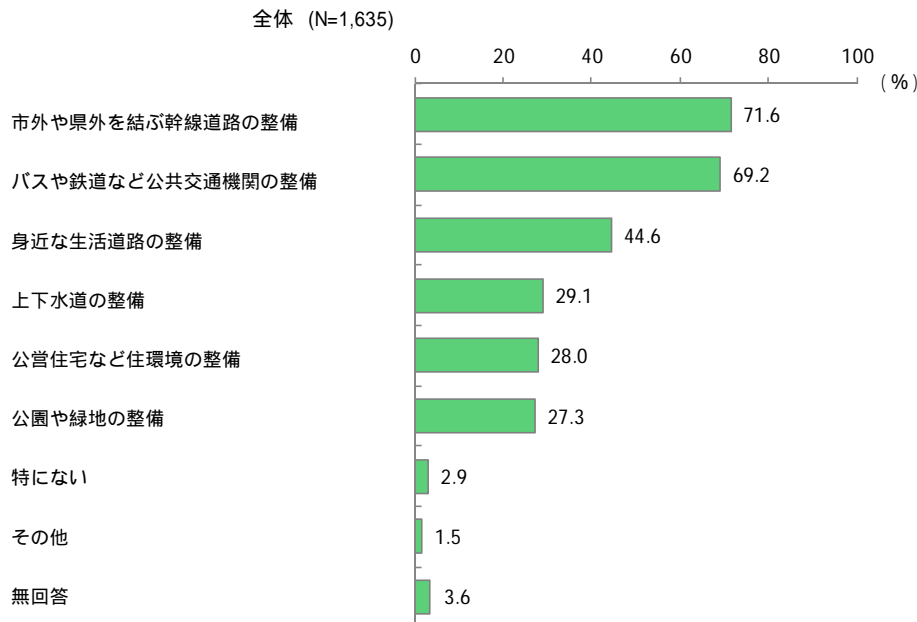


南相馬市が取り組む施策「医療・健康・福祉」で力を入れるべき事項については、「医療スタッフの確保の強化」が79.5%と最も多く、約8割となっている。

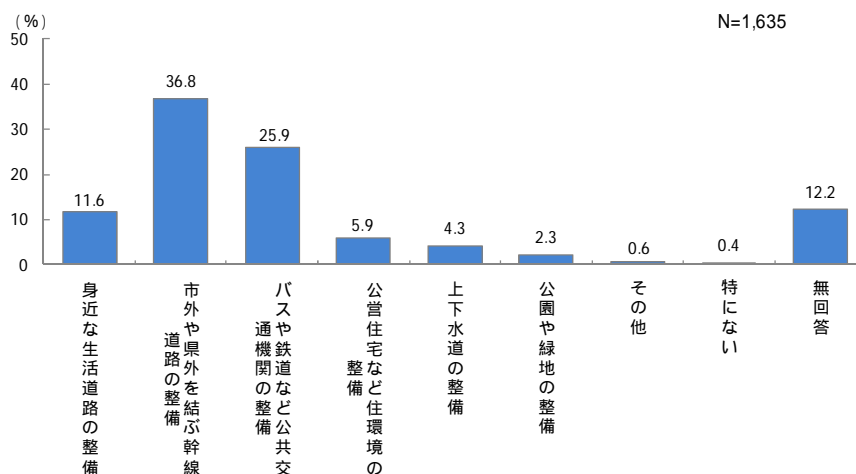
最も力を入れるべき事項も同様に、「医療スタッフの確保の強化」が37.7%と最も多い。

14.【インフラ整備】力を入れるべき事項

問19 今後、南相馬市が取り組む施策「インフラ（社会基盤）整備」について、力を入れるべき事項についてお答えください。（あてはまる番号すべてに ）



問19-1 問19でお答えになったもののうち、最も力を入れるべき事項は何ですか。

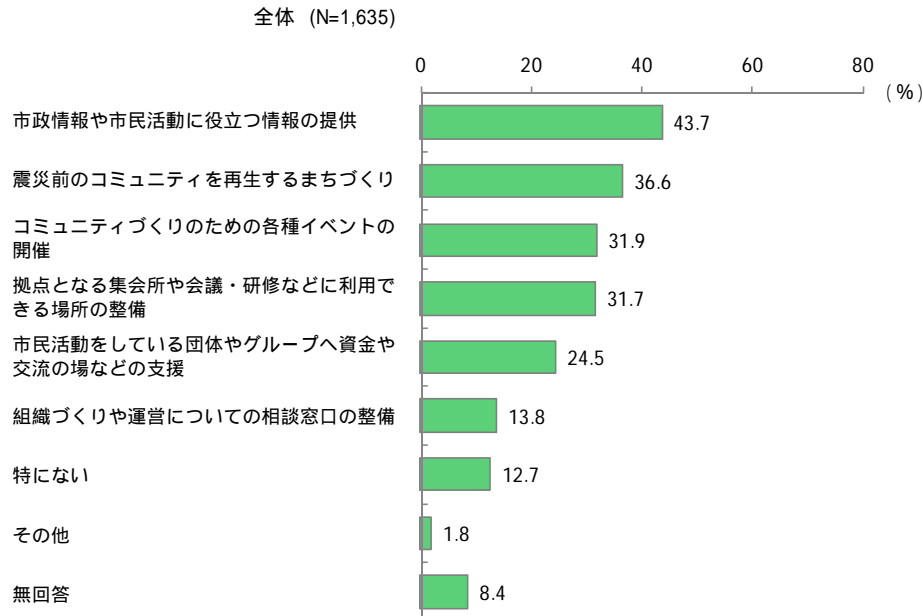


南相馬市が取り組む施策「インフラ（社会基盤）整備」で力を入れるべき事項については、「市外や県外を結ぶ幹線道路の整備」が71.6%と最も多く、次いで「バスや鉄道など公共交通機関の整備」が69.2%と3位以下を大きく引き離している。

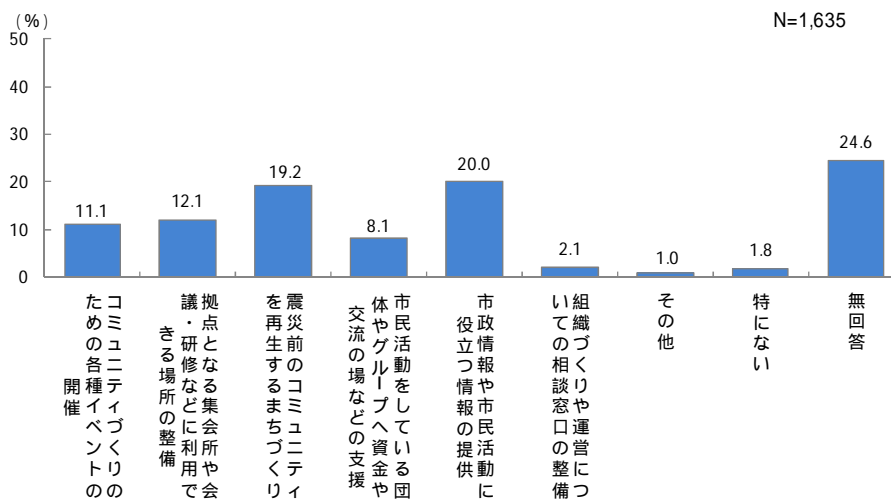
最も力を入れるべき事項も同様に、「市外や県外を結ぶ幹線道路の整備」が36.8%と最も多い。

15.【地域づくり】力を入れるべき事項

問20 今後、南相馬市が取り組む施策「地域づくり」について、力を入れるべき事項についてお答えください。(あてはまる番号すべてに)



問20-1 問20でお答えになったもののうち、最も力を入れるべき事項は何ですか。

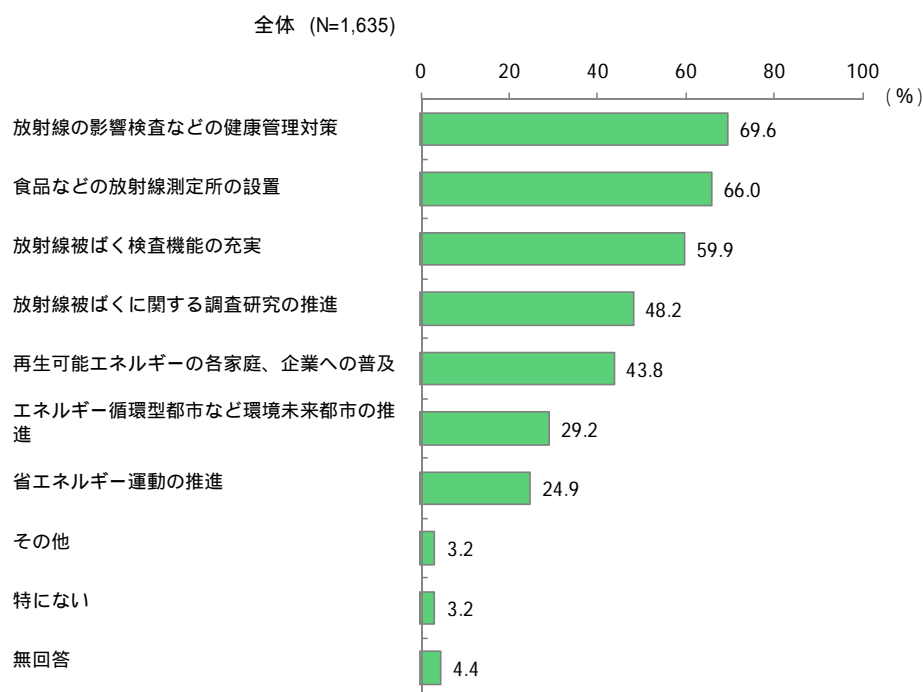


南相馬市が取り組む施策「地域づくり」で力を入れるべき事項については、「市政情報や市民活動に役立つ情報の提供」が43.7%と最も多くなっている。

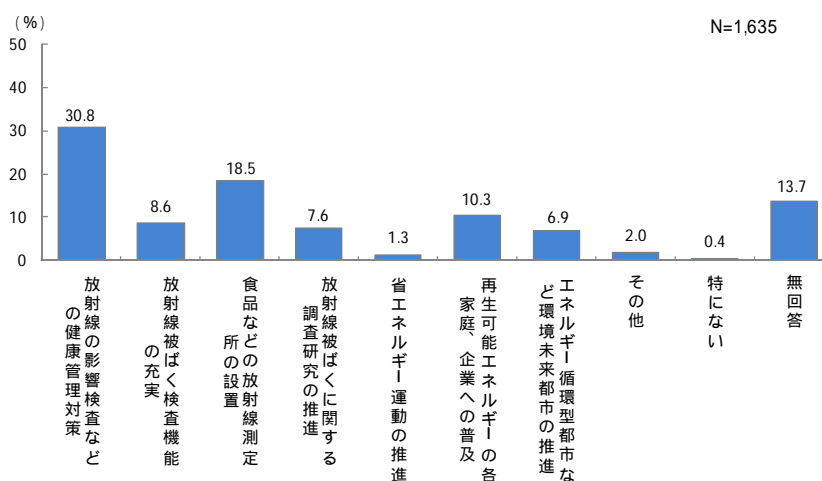
最も力を入れるべき事項も同様に、「市政情報や市民活動に役立つ情報の提供」が20.0%と最も多い。

16.【原子力災害の克服】力を入れるべき事項

問2-1 今後、南相馬市が取り組む施策「原子力災害の克服」について、力を入れるべき事項についてお答えください。(あてはまる番号すべてに)



問2-1-1 問21でお答えになったもののうち、最も力を入れるべき事項は何ですか。



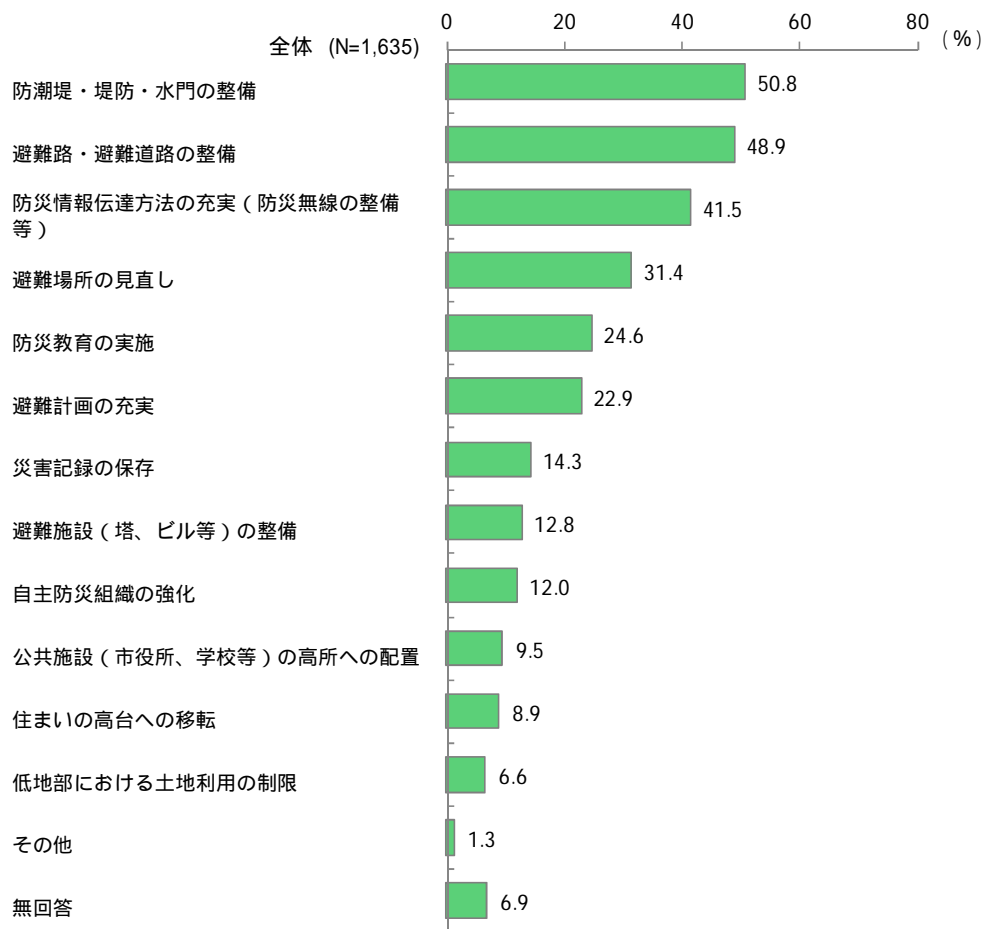
南相馬市が取り組む施策「原子力災害の克服」で力を入れるべき事項については、「放射線の影響検査などの健康管理対策」が69.6%と最も多く、次いで「食品などの放射線測定所の設置」が66.0%となっている。

最も力を入れるべき事項も同様に、「放射線の影響検査などの健康管理対策」が30.8%と最も多い。

17. 防災・減災のまちづくりに必要なこと

問22 今後、防災・減災のまちづくりに必要と考えることはどのようなことですか。

(特にあてはまる番号3つまで)



今後、防災・減災のまちづくりに必要な事としては、「防潮堤・堤防・水門の整備」が50.8%と最も多く、次いで「避難路・避難道路の整備」が48.9%と、防潮堤や避難路など施設の整備が必要と回答する人が多い。